

令和元年11月22日

## 令和元年度 施設見学会を開催

(一社)日本物流団体連合会(渡邊 健二会長)は、令和元年11月13日(水)、物流連の会員事業者であるセンコー(株)(福田 泰久代表取締役社長)の協力を得て、令和元年度施設見学会を同社の流山ロジスティクスセンターで開催し、会員企業・団体、事務局38名が参加した。

同センターは、昨年5月に、大和ハウス工業(株)が開発したマルチテナント型物流施設「DPL 流山 I」の3階部分に、同社顧客の(株)ユナイテッドアローズ(以下、UA社)の基幹物流センター(約9,244坪)として開設され、UA社商材の入荷、品質管理、流通加工、保管、並びに全国、および海外の店舗への商品供給のための出荷業務他を行っている。

今回見学したのは、同施設の共用部分(建物施設側が管理する在館職員が利用できる託児所、食堂等のアメニティーエリア)と、センコー(株)が直接運営する物流センターである。

同センターには、全長約8kmのハンガーラックシステムをはじめ、トーヨーカネツ(株)製の高速での入出荷作業が可能なケース自動倉庫「マルチシャトル」(オリコン約3万箱を格納可能)、(株)椿本チエイン製のピースソーター「リニソート」(出荷取り口数:238)を組み合わせた大型マテハンシステムが導入されている。また、商品タグにはRFIDが組込まれており、センター入荷以降小売りまで一貫した在庫管理が達成されている。

冒頭、物流連の長谷川理事長より挨拶があり、続いて、センコー(株)関東主管支店より、建物施設、並びに同社ロジスティクスセンターの運営について概要説明がなされた。

続いて2班に分かれて、初めに共用部分、続いて、ロジスティクスセンター内の各運営エリアを、同社のセンター関係者による解説を交え、入荷から出荷に至る一連の流れに沿って間近に見学した。

同ロジスティクスセンターは、UA社の物流センターの運営計画(物流体制の一新による、センター運営の省人化・効率化によるローコストオペレーションの追求、および安定した商品供給体制構築)、並びに業務特性に適応した仕様とするため、センコー(株)とUA社の間で、大型マテハンシステムについて共同で企画・設計を行う等、センター開設まで約1年の準備期間が設けられたとのことであった。

参加した会員からは、見学中から活発に質問が寄せられ、見学会後の質疑応答の後、見学会を終了した。



「D P L 流山 I」施設全景（提供：センコー㈱）



見学会の様子